

第三回中間報告（春学期終了報告）

2024年12月16日-6月5日

（クリスマス休暇~春学期終了）

国際ロータリー2710地区

2023-24年度 地区補助金奨学生

小林美晴

1. 報告書提出日

2024年6月6日

2. 基本情報

氏名：小林美晴

派遣ホストクラブ/カウンセラー：広島南ロータリークラブ / 山内恭輔様

教育機関：シェフィールド大学 The University of Sheffield

専攻分野：東アジアにおける政治とメディア MA Politics and Media in East Asia

3. 学業面での成果

全ての授業が終了し、残すは修士論文だけとなりました。クリスマス休暇は秋学期の課題に追われ、その後はすぐに春学期が始まり、また就職活動も本格化するなど、目まぐるしい5ヶ月間となりました。まずは前学期の課題の結果と春学期の授業の振り返りをしていきたいと思います。また授業以外での学びについて春学期から新しく取り組んでいるリサーチプロジェクトへの参画について振り返りたいと思います。

まず秋学期に提出したエッセイについてです。初めての英語での本格的なエッセイだったため、想像以上に苦勞し、成績がとれているかどうか不安に感じていました。しかし、ほとんどが merit（上から二つ目の成績評価）で、一つは distinction（一番上の成績評価）という予想していなかった結果となりました。私自身も必死に取り組んだ成果であるということ以上に、助けを求めることのできる環境に置かれていることが一番大きいと感じています。コースメイトであるネイティブの友人たち3人がエッセイを交互に添削してくれたことで、自分の弱点について知ることができました。また彼らのアドバイスによってライティング力を上げることもできたと感じています。また同じくネイティブではない中国人の友達とは、その苦勞を共有することができ、お互いに励まし合いながらエッセ

イに取り組むことができました。また友人だけに限らず、先生方にも気軽に質問ができる環境であったため、ライティングの途中で挫折することなくやり遂げることができました。課題のフィードバックでは、クリティカルシンキングやオリジナリティの不足、またエッセイの構成が不明瞭であることなど様々な点が指摘されていました。やはり一番上の成績を取るのは大変難しいと感じましたが、指摘された課題点を春学期のエッセイでは生かそうと努力をしたのでよりよい成績につながっていることを祈るばかりです。

また春学期受講したモジュールは以下の4つになります。

(1) 日本のメディアとパブリックコミュニケーション **【Media and Public Communication in Japan】**

日本においてメディアが東アジアの社会や政治とどのように関わり合いを持っているのか、またどのような役割を果たしているのかについて日本のメディアの報道の仕方、表現方法やその内容の分析を通して学ぶ授業でした。3時間の長丁場の授業だったのですが、グループワークが多く、他の学生と議論をすることで自分の視点をより深める機会が多い授業でした。特に日本の広告に関してグループで分析を行った際には、私自身が日本で暮らしてきた中で当たり前のように感じていたジェンダーバイアスについて気づききっかけになりました。最後の課題もグループで行うエッセイで「日本の広告メディアにおける女性の表象」をテーマにして執筆を行いました。メディアに関する研究の動向や西洋で行われてきたケーススタディを含めながら、日本における広告の社会的役割や課題を明らかにできたと感じています。このグループエッセイはアメリカ人と中国人のコースメイトと一緒に行ったのですが、二人とも博士課程を目指しているため、分析力やライティング力など様々な観点で刺激をもらうきっかけにもなりました。また執筆後は中国人の友人が中華料理を振る舞ってくれるなどさらに仲を深めるきっかけにもなりました。

(2) 現代中国政治とガバナンス **【Politics and Governance in Contemporary China】**

中国の社会システムを中心に中国という国の動きを歴史、社会、政治、経済と幅広い側面から捉える授業でした。その上で、中国が抱える地方と都市の地域格差、移民問題、労働問題、経済発展などさまざまな論点で授業が行われました。この授業を担当した教授は、ウイグル自治区をはじめとする中国のマイノリティ研究が専門で、イギリスでも有名な方だったので、受講前からとても楽しみにし

ていた授業でした。こうした著名な学者の授業を直接受講でき、研究内容について質問ができるのも海外大学院ならではの感じました。教授がスコットランド出身だったため、癖の強いスコッティッシュアクセントに苦労しながらも、セミナーでは先生と個別にディスカッションができる形式だったため、学期を通じて先生の豊富な知識に触れながら勉強することができました。アメリカで中国の政治経済を勉強していた友人もいたため、彼女の圧倒的な知識量と批判的思考力に圧倒されながらも一緒に学びを深めることができましたと感じています。お互いに鼓舞し合いながら取り組むことができました。

(3) 東アジアにおけるメディア、文化、社会、【Media, Culture, and Society in East Asia】

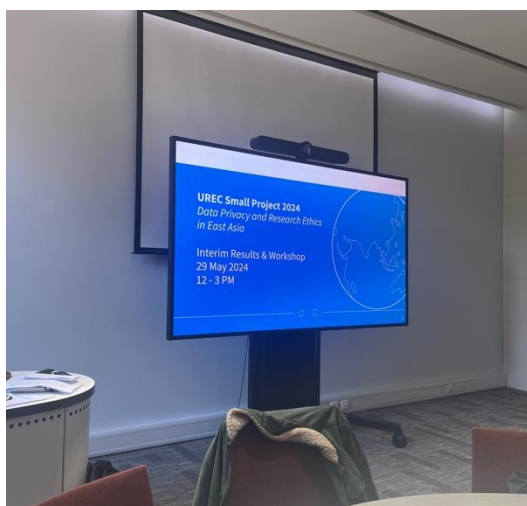
東アジア地域の社会における文脈で、広範なメディアが果たす役割を学びました。地域構築や消費者行動、グローバル化、フランチャイズなどの社会のダイナミズムの中におけるメディアの動きは初めて学ぶことであり、とても興味深かったです。特に国際関係におけるソフトパワーとしての文化の役割だけでなく、経済活動や文化交流といった外交に止まらない様々な場面におけるメディアや文化の役割を捉えることができました。エッセイ課題では外交関係と映画産業の関係について論じることで、日本において映画産業がどのような立ち位置で政治や社会に貢献してきたのかを韓国との比較において明らかにできたと思います。

(4) 戦後日本政治【Postwar Japanese Politics】

戦後から安倍首相までの日本政治が海外においてはどのように研究され議論されているのか、政治のシステムや政党の外交政策まで幅広く扱いました。このモジュールも比較的少人数のセミナーで教授との距離が近い状態で行われました。特に安倍首相の時の国内政治と外交は海外でも多くの研究がなされており、安倍政治に関して授業の中で行われた他国との政策比較は興味深かったです。課題として課されたエッセイでは安倍政権期に行われたアベノミクスにおける女性活躍推進の効果について分析を行いました。モジュールオーガナイザーだけでなく、労働問題がご専門で前学期でお世話になった教授にも助言をいただくなどし、納得するエッセイを書き上げることができました。

また学業面以外では引き続き、学部の学生代表として定期的に先生方とのミーティングに出席し、学生からの意見を届ける橋渡し役としての役割を担っています。また学部のスタッフの紹介で、リサーチアシスタントとして東アジア地域の

個人情報の取り扱いに関するリサーチプロジェクトに参加しています。日本、韓国、中国のそれぞれの国において研究を行う際に個人情報がどのように扱われているのか、法制度や研究倫理規約などの観点からリサーチを行っています。今後シェフィールド大学の研究倫理規定の改訂へと内容修正などに活かしていく予定だそうです。同じくこのプロジェクトに参加しているマスターの学生はおらず、改めていつも様々な機会を下さる学部の方には感謝の気持ちでいっぱいです。また学生代表、リサーチアシスタントとしての活動を通して先生方とのコネクションが増えたことで、どの学生よりも先生方から気遣いをいただいていると感じております。改めてこのような環境で勉学に励むことができることのありがたさを身に染みて感じています。



←リサーチプロジェクトのワークショップ Findings について発表し、先生方と意見交換を行いました。

4. 直面した課題

アカデミックスキルの向上

前述の通り、すべてのエッセイで merit 以上の成績は頂いたものの、やはり最高評価をいただくまでの壁はまだ厚いと感じました。「イギリスの大学院では学部で身につけた力しか発揮することができない」という話を聞いたことがあったのですが、まさに私自身のアカデミックスキルの不足に痛感する毎日でした。

「論文を批判的に読み、それらの議論をまとめ、エッセイにおいてオリジナルな議論を展開しながら書く」ということの難しさを感じています。しかしながら、先生方をはじめ、博士課程を目指す友人に常日頃から相談することができることやライティングに関するフィードバックがもらえることで自分の弱点に向き合い、改善に取り組むことができていると感じています。

また大学には Writing Advisory Service (WAS) というライティングのサービスがあるのですが、年回 10 回という回数制限が設定されていました。しかし、春学期のエッセイを見てもらった方の一人が「君は日本人なの！僕は日本が大好きなんだよ。きつねうどん、寿司、全部懐かしいな～」と日本への愛を語ってくださり、「大学のサービスを通さなくていいからいつでもエッセイでも修士論文でも送ってくれたら見てあげるよ！」と行ってくださいました。そしてそれから個人的にライティングを見てもらえることになりました。留学初日のバングラディッシュの方や学部の先生方、コースメイトたち、就職活動における OB 訪問と今回の留学中は本当に様々な方とのご縁を感じる出来事が多く起きているのですが、こんなところでも新たに私の強力なサポーターが増えるとは思ってもおらず、感謝の気持ちでいっぱいです。春学期は秋学期に加えて、この方にも何度も何度もエッセイを見ていただきました。見ていただいている理由としては私が日本人だからということらしく、このような理由だけでこんな特別扱いを受けていいのか少し気が引けているのですが、このご縁に感謝をしながら修士論文でもお力を貸していただこうと思っております。

学業と就職活動の両立

この期間で一番苦勞し、心が折れそうになったのは学業と就職活動との両立でした。周りには去年のポストンキャリアフォーラムで企業から内定をもらっている学生も多く、留学生の就職活動が終わりに向かう中、国内選考とロンドンキャリアフォーラムに的を絞り、準備を行いました。また 12 月末に第一志望が決まったことで目指すべき目標がはっきりし、最後まで気を引き締めて取り組みました。

1 月中は毎日のようにエッセイに追われていたため、あまり就職活動を進めることができず、春学期が始まった 2 月から本格的な両立を行うことになりました。しかし、秋学期よりも授業数が増えたことや事前準備である Reading の量が増えたため、両立が大変難しかったです。ただ、日本時間の午後はイギリス時間の早朝にあたるため、早朝から午前中は就職活動、午後以降は勉強・研究活動と分けることでメリハリをつけて取り組みました。ただうまくいかないことも多く、体調を崩してしまったりすることも多々ありました。また両立だけでなく、民間企業の選考はうまく進まないことが多く、落ち込む日々でした。しかしながら 2 月はじめに第一志望の組織のロンドン事務所に訪問させていただいたり、同じくシェフィールドのマスターにきている日本人の方の一人が私の志望している企業から来られている方だったため、その方と一緒に選考対策を行うことができ

たりと、たくさんのご縁に恵まれながらなんとか就職活動を前に進めていくことができました。周りの優秀な留学生と比べるとかなり時間のかかってしまった就職活動となったのですが、無事にロンドンキャリアフォーラム、そして国内選考にてそれぞれ希望の組織から内定をいただくことができました。

自転車の盗難疑惑（？）

ある日いつものように図書館から自転車に乗って帰ろうとすると停めていたはずの自分の自転車がなくなっていることに気づきました。シェフィールドでは大学周辺に限らず、シティセンター内も大変治安が良く、盗難は聞いたことがありませんでした。そうした気の緩みもあり、鍵をしっかりとかけていなかったため自転車がなくなってしまったのだと思いました。自分の不注意と軽率さに嘆きながら、またわざわざ自転車を下さった友人のご家族にどう説明しようかと頭を悩ませながら寮に帰りました。その後、友人に「大学に盗まれたことを報告した方がいい」と助言をもらい、図書館のカウンターに報告に行くと「あれってあなたの自転車？」と言われ、指をさされた方向に目をやると私の自転車が図書館の中にありました。どうやら鍵がうまくかかっていなかったため、安全面からセキュリティの方が図書館の中に保管してくださっていたそうです。ほっとすると共に、改めていろんな方の気遣いに触れた経験になりました。シェフィールドは治安がいいとはいえ、海外であることには変わりはないので自分の持ち物には十分に注意を払おうと思いました…。

オーロラを見逃す

5月にイギリス全土でオーロラを見ることがある日がありました。イギリス人でさえ見たことがないと言われる中でこのように全土で観測できるのは本当に稀なことだと言われていました。しかしながら、オーロラが観測された23時ごろ、図書館にこもってエッセイを書いていた私は友人からのメッセージに気づくことができませんでした。1時ごろになって急いで外に行ったものの、すでにオーロラは消えてしまっていました…。いろんな人がSNSにオーロラの写真を出しているのを見て、とてもショックを受けた出来事になりました。

5. 今後の課題・目標

前述した通り、無事に就職活動を終えることができました。来年の4月からは第一志望だった独立行政法人の職員として勤務する予定です。日本の政策の実行

者として地方と海外を繋ぎながら日本社会に貢献できるよう、これからも志を高く持ちつづけたいと思っています。選考では幼少期からの社会貢献活動の経験、学部時代の地方経験、現在の留学経験が評価されたのではないかと考えています。今回の留学がなければこうした進路を選ぶことは難しかったと考えており、まさに留学があったからこそ拓けた道だと確信しています。入構後は東アジア地域の貿易促進、そして日本の経済発展のためのイノベーション支援に携わりたいと考えています。

また残すは修士論文だけになったため、これまでの自分自身の弱点を意識しながら8月末の締め切りまで気を引き締めて取り組んでいこうと思います。論文を執筆するにあたって得る知識、アカデミックスキル、語学力は就職後も大いに活かすことができると考えているので、就職後の組織での活躍を見据えて全力で取り組みます。

6. その他

様々な困難があり、しんどいと感じることもありますが、それ以上に周りの多くの人に支えられ、また新たな出会いにも恵まれて毎日充実した生活を過ごすことができています。ガザでの戦争が日々悪化する中、その状況を毎日目にするたびに本当に心が痛いです。しかし、私自身ができることは自分自身にしっかりと知識とスキルを身につけ、社会に貢献していくことのできる人材へと成長することだと思っています。自分がいかに恵まれた環境で勉学に励むことができているかを忘れず、そして世界情勢に目を向けながらこれからも謙虚に努力を続けていこうと思います。



↑シェフィールドの桜

今回の留学、そして就職活動を通して次なるステップに繋げることができたのは、ロータリー財団の皆様のご支援があったからこそだと思っています。心よりお礼申し上げます。2008年ぶりの円安だと言われる中、このように支援を頂き、留学ができていることに感謝の気持ちでいっぱいです。最後まで今の環境を100%活用したと言えるよう、熱量を切らすことなく走り抜けたと思います。

引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。